

むすぶ

弥彦村社会教育だより

令和4年3月24日 NO.24
弥彦村社会教育委員の会

《令和3年度委員の会活動を振り返って》

弥彦村社会教育委員の会は、委員一人一人が学校・家庭・地域をつなぐパイプ役となり、家庭・地域の教育力の向上と地域づくりのため、行政と村民をつなぎ、社会教育のネットワークの形成に取り組むことを目的としています。令和3年度は、社会教育委員にとって慌ただしい一年でした。5つの方針を掲げ、以下の様に取り組みました。

(1) 社会教育事業と社会教育委員について周知し、住民の理解と協力を得る。

- ・たよりの名前を「むすぶ」に変更し、内容を工夫しました。
- ・「あいさつ運動」を展開し、「ポスター」を全戸配布して協力を呼びかけました。
- ・「地域づくり交流会」で、来年度実施するイベントについて協議しました。

(2) 委員各自が主体的に活動する。

- ・委員の会で活動する事業が多い年でした。そのため、全員で取り組まなければならないことが多く、あまり個人的活動ができませんでした。

(3) 互いに高め合い、協力して課題解決に取り組む。

- ・「あいさつ運動」「中越地区社会教育研究集会実行委員会」「地域づくり交流会」「第2回PR動画コンクール開催」等、事業が例年より多い中、協力して活動できました。

(4) 委員個々の資質が高まるよう研修会等へ参加する。

- ・中越地区社会教育研究集会の運営について研修しました。
- ・県主催の研修会にリモートで参加しました。

(5) 燕市と協力し中越地区社会教育研究集会を盛り上げる。

- ・ウィルス禍で、研究集会は中止になりましたが、主管市町村として実行委員会に参加して、準備に尽力しました。



今年度から、委員を10名に増やしてもらいました。委員のほとんどが仕事を持っているため、集まりを19時に変更して会を運営しました。しかし、年間10回を超える集まりがあり、それぞれに全員が参加することはできませんでした。それでも「やれることをやれる時にしよう」を合言葉に頑張りました。

最後の集まりとして、3月2日（水）に教育委員の皆さんとの懇談会を開催しました。1年間の社会教育委員の活動を報告し、次年度の提言をした後で、活発な意見交換を行いました。大変有意義な会となりました。学校教育と社会教育は、車の両輪に例えられます。現在、村ではコミュニティスクールが導入され、スクールサポーターが活躍されています。今後、委員同士がさらに連携を深めることで、この活動がより充実したものになると考えます。そのために、社会教育委員も地域の応援体制に寄与できるように、活動を充実させていきたいと考えています。

最後に、「あいさつ運動スローガンポスター」袋詰め作業に応援いただいたスクールサポーターの皆様に、紙面を通じて感謝申し上げます。

(文責 渡辺)

《地域づくり交流会の意見の実現》

昨年11月に開催された第7回地域づくり交流会では、「みんなが楽しめるイベントを企画しよう!」というテーマのもと、参加者がグループに分かれて様々な意見、アイデアを出し合いました。弥彦村の農産品や特産品を使った料理の提案や、冬のイルミネーション、村全体を会場にしたスタンプラリーや宝探し、音楽フェスの開催など大胆なアイデアもありました。SNSを利用した写真の投稿、共通のハッシュタグをつけての投稿など若い世代からのアイデアもたくさん出しました。

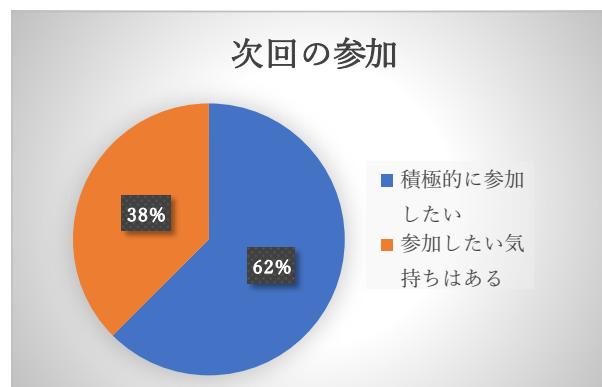
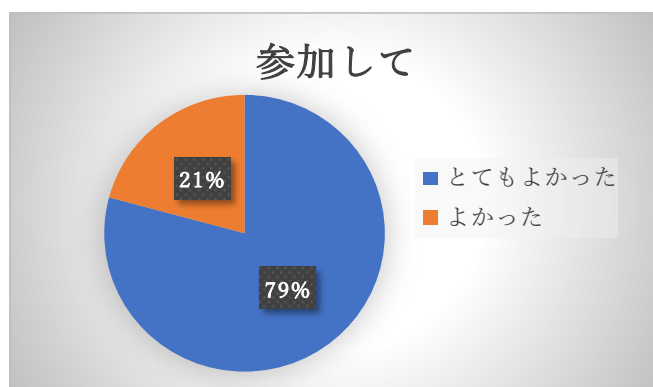
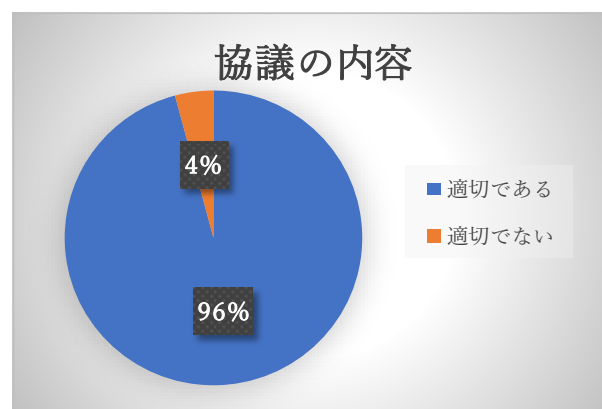
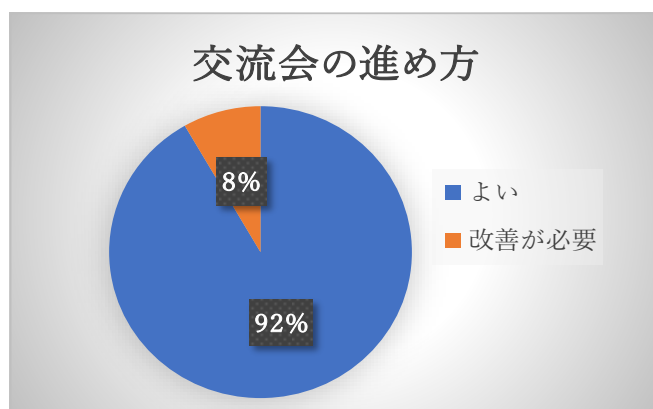


グループ協議の様子

大勢の方にご参加いただき、出していただいたたくさんの意見やアイデアは、社会教育委員で協議し、実現を目指し活動をしていきます。実施主体を社会教育委員の会だけでなく、教育委員会や各種団体、協会等にも働きかけることで、多くの方に参加してもらいたいと思います。また、ボランティアを募るなど、村民の皆様と共に作り上げていくイベントを目指していきます。

(文責 柏原貴)

＜参加者アンケートまとめ＞



＜意見・感想＞

- ・もっとたくさんの方が集まるようにチラシを小中学生全員に渡すなどしてもよい。
- ・今日出たイベントを具体的に議題にして話したい。
- ・毎年の新しいテーマの他に何年もかけて取り組むテーマも欲しい。
- ・定期的に交流会を開催していただきたい。継続してほしい。
- ・今回のテーマはとても考えやすい、そして楽しい内容でアイデアを出しやすかった。

- ・やることを絞って具体的（段階的）に議論する。
- ・オンラインで今日の様子を限定配信する。こんな話し合いがこんな風に行われているんだと知ってもらえる。関心をもってもらうと参加者がもっと増えると思う。
- ・ぜひ続けていってほしいし、この交流会は出会いの場と言っていい。
- ・交流会の回数が増えるといいなと思う。
- ・動画のPRはもう少し変えてみよう・・・ですか。
- ・区長さんや村長さんなど弥彦村の事をよく知っていらっしゃる方が参加して、村の現状について説明があるととても良い話し合いができると思う。
- ・色々な人たちとの交流ができて、様々な新しい発見などもあってよかった。
- ・参加者の方々が楽しく盛り上がっていて楽しかった。ありがとうございました。
- ・登下校中に学生さんにあいさつをしてもらう機会が増えたような気がする。引き続き取組を盛り上げていけるといいと感じた。
- ・村のために一生懸命考えたり活動したりしてくれている人がいることに「すごいな」と感心させられる。これからも村のためによりよくお願いしたい。応援している。
- ・楽しいあいさつ運動があればと思う。（弥彦独自のあいさつをつくるなど）
- ・楽しく頭を使わせてもらった。ありがとうございました。
- ・あいさつはやっぱり一人一人がした方がいいと改めて感じた。来年また来たいと思う。
- ・子どもがというよりも大人が先にあいさつするようにするのが大切だと感じた。

《教育委員の皆さんと懇談しました》

3月2日（水）15時から、役場委員会室で教育委員3名と社会教育委員6名が出席し、懇談会が開催されました。

教育長、社会教育委員長あいさつの後、柏原路子委員が会の活動報告と来年度への提言を発表しました。今年度の成果としては、①PR動画コンクールが実施できた ②「あいさつ運動」ではスローガンを募集し、優秀作品のポスターを作成して村全戸配布できた ③第7回地域づくり交流会に小・中学生を含む37名の参加があり、「村民が楽しめるイベント」について、アイデアを出し合うことができた などがあげられますが、中学校部活動の地域移行については、残念ながら手を付けることができませんでした。

次年度への提言としては、①社教だより「むすぶ」を全戸配布にして、村民がいつでも見られるようにしてほしい ②「あいさつ運動」は村が運動の中心となって盛り上げることができないか ③他市町村の社会教育活動の具体例を参考にするような研修会を設けられないか ④各組織・団体が横断的に協力して活動できるような体制を構築できないかなどを提言しました。



その後、小グループに分かれ、これらを踏まえて教育委員、社会教育委員それぞれの立場から忌憚のない意見を交わすことができました。

今後も懇談を続けてより意思の疎通を図っていきたいと思っています。

（文責：柏原路）

《スポーツ少年団紹介No.3：バスケットボール教室》

弥彦村スポーツ少年団の紹介、第3回目は『バスケットボール教室』です。監督は大井源一郎さん、コーチは渡辺満さん・長井大佑さん・阿部年弘さんです。現在、所属している児童の人数は33名で、毎週土曜日の17時半～19時まで、弥彦中学校体育館で練習を行っています。

練習メニューは、準備体操からのフットワーク・基礎練習からのミニゲームです。指導方針として、バスケットボールの基本的な動きの練習やレクリエーション要素を取り入れた練習を心掛けているそうです。大会には出場しませんが、バスケットボールを好きになってもらえるよう活動をおこなっています。

【目標】

バスケットボールを通じて、子どもたちが楽しく体を動かすことで、健康的に成長できることを目指しています。また、個人の技術やチームプレーを楽しく活動しながら、一人一人のペースで身に付けてもらうことを目指しています。

【エピソード】

初めは、シュートがリングに届かなくても、練習を続けるとゲームでもシュートが入るようになります。ゲームは、1～3年生・4～6年生でチームを組んでいます。学年に関係なく、みんなが積極的にシュートを狙います。どんどんシュートが入るようになると、より楽しく、喜ぶ子どもたちがたくさんいます。



委員長	渡辺 和也 (矢作)	副委員長	柏原 路子 (麓二区)
委員	那須裕美子 (川崎)	河井 昌之 (弥彦中校長)	半間 義之 (矢作)
	石井 亘 (井田)	阿部 朗子 (弥彦)	柏原 貴也 (麓二区)
	石塚 孝也 (矢作)	東樹 薫 (美山)	
事務局	堀 隆行 ・ 徳永 拓実 (教育課)		

※ ご意見、お聞きになりたいことがある方は、近くの委員、もしくは、教育課事務局にお電話ください。(事務局94-4311)